

(様式2)

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	伊丹市立 伊丹特別支援学校 教諭 門脇 陽一	研究グループ名 (自主専門研究会)	採択番号
-----------------	---------------------------	----------------------	------

研究テーマ分類番号(9)

県教育委員会のホームページに掲載します。

(1)研究テーマ
特別支援教育の専門性の向上を目指して ～アセスメントを活かした授業の工夫～
(2)研究経過及び具体的な取組
6月 3日 年間計画立案 『今年度の活動計画についての検討』 ・実施場所及び人数：伊丹市立伊丹特別支援学校 6人 ・司会：伊丹市立伊丹特別支援学校教諭 ・内容 今年度の活動方針や、参加者が普段、指導において疑問に感じていることについて意見を出し合い、今年度、研修対象とする具体的な指導方法や実態把握の方法について検討した。
7月16日 事例研究『WISC - 、WISC - を用いた実態把握について』 ・実施場所及び人数：伊丹市立伊丹特別支援学校 7人 ・講師：伊丹特別支援学校教諭 ・内容 事例を元に WISC の検査結果の分析と、今後の子どもの指導方針策定、指導方法についてグループワークを行い研修した。 ・成果 具体的な検査内容を知ることで、認知的な特性と学習面や日常生活面との関係について、学んだ。また、検査を元にした学習内容の設定の仕方について学ぶことができた。
9月17日 事例研究『新版 K 式発達検査 2001 を用いた実態把握について』 ・実施場所及び人数：伊丹市立伊丹特別支援学校 8人 ・講師：伊丹特別支援学校教諭 ・内容 事例を元に、新版 K 式発達検査 2001 の検査結果から子どもの全般的な発達の段階について読み取る方法、今後の指導方針の策定、指導方法についてグループワークを行い研修した。 ・成果 子どもの全体的な発達の道筋から、子どもの認知的な偏りについての見方を学んだ。また、検査を元にした学習内容の設定の仕方について学ぶことができた。

10月22日 事例研究『URAWSSを用いた実態把握について』

- ・実施場所及び人数：伊丹市立伊丹特別支援学校 6人
- ・講師：伊丹特別支援学校教諭
- ・内容

事例を元に、URAWSS（読み書き障害のスクリーニングテスト）を用いた学習の苦手な子どもの実態把握の仕方と、今後の指導方針の策定、指導方法についてグループワークを行い研修した。

- ・成果

板書の視写や音声での読み上げが難しい子どもの実態を把握するためのテストの取り方を学んだ。また、テストを元にした子どもの指導課題の設定の仕方について学んだ。

11月19日 事例研究『遠城寺式、S-Mを用いた実態把握について』

- ・実施場所及び人数：伊丹市立伊丹特別支援学校 6人
- ・講師：伊丹特別支援学校教諭
- ・内容

遠城寺式乳幼児分析的発達検査、S-M 社会生活能力検査を用いた子どもの全般的な発達の実態把握の仕方や、自立に向けた課題について、グループワークを行い研修した。

- ・成果

全般的な発達や社会性についての実態把握の仕方を学ぶことができた。また、子どもの指導目標を設定する際に、保護者とどのように話をすすめるとよいのか学んだ。